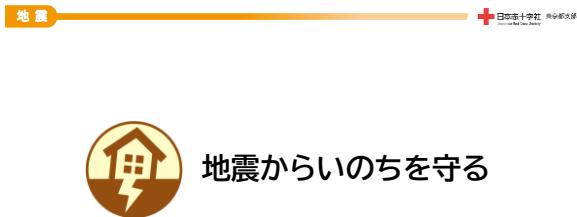
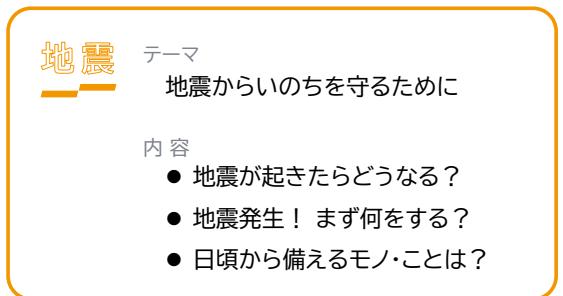




1



2



3

地震発生の可能性

どこで起こる？

- 活断層型
- ・確認されている活断層
(日本列島に約2,000か所)
 - ・活断層が確認されていない場所
- 海溝型
- ・日本の周辺海域

いつ起こる？

名 称	30年以内の発生確率
首都直下地震	70%程度
南海トラフ地震	70~80%程度
阪神・淡路大震災	0.02~8%

どこでも、いつでも
大きな地震が起こる可能性がある

4

4

5

イメージしてください

あなたは今、自宅の台所にいます。
これまで経験したことのない
たいへん大きな揺れを感じました。



あなたは
まず、何をしますか？

5

5

6



すばやく身を守る



6

▶ **揺れ** <揺れによって起こること>

- モノが倒れる
 - モノが落ちる



- ・建物自体が倒れる
- ・家具・家電が倒れる
- ・塀や電柱が倒れる

- ・建物自体が倒れる
 - ・家具・家電が倒れる
 - ・壇や電柱が倒れる
 - ・天井、照明、窓ガラスの破片が落ちる
 - ・棚の上の荷物が落ちる
 - ・瓦、看板、鉄骨が落ちる
 - ・引き出しが飛び出す
 - ・食器類が飛び出す
 - ・テーブル、イスが動く



——提供：崇原市教育委員会



摄影日本东一

▶ 摺れ <揺れからいのちを守る>

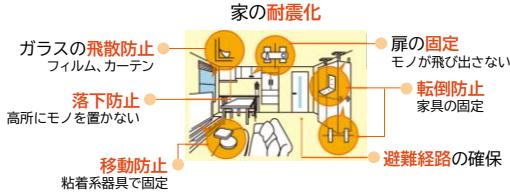
地震発生 身の安全を確保する

- ## ● 危険なモノから離れる



▶ 摆れ <揃れからいのちを守る>

日頃から 安全なスペースを確保しておく



▶火災 <火災によって起こること>

阪神・淡路大震災（1995年）

- ・293件の火災が同時多発的に発生
- ・7,000棟以上の住宅と80万m²以上の街並みを焼失
- ・木造家屋の密集地域で大規模な延焼火災発生
- ・倒壊した家屋に閉じ込められたまま…



阪神・淡路大震災時の延焼火災

10

イメージしてください

大きな揺れがおさまったとき、
あなたは煙のにおいを感じました。
そこで、火災が起きていないか
家の中を見てまわることにしました。



11

11

▶火災 <火災から命を守る>

地震による火災の原因

- 暖房器具などが倒れる



- 傷んだ配線が接触する



- 落下物が接触する

12

12

▶火災 <火災からいのちを守る>

地震発生 摆がおさまったら 火元を確認する

- ガスコンロ、ストーブなどの火を消し、火災の原因をつくらない

火災発生 周囲に知らせる、初期消火する

- 周囲に火災の発生を知らせる
- 火が小さいうちに消火器で火を消しとめる
(初期消火の限界:炎が天井に到達するまで)
- 自力での消火が難しいときは、近所などに助けを求め、地域で協力して火を消す



13

13

▶火災 <火災からいのちを守る>

●避難時 火災防止措置をとる

- ガスの元栓を締める
- 電気のブレーカーを切る



通電火災

- 停電から復旧した際、通電状態の器具などから出火する
- 阪神・淡路大震災では約6割が通電火災



14

14

▶火災 <火災からいのちを守る>

日頃から 消火器などを準備しておく

消火に役立つ情報を確認しておく

- 耐火性カーテンなどを使用する
- 消火器などの器具を準備し、実際に使えるようにする
- 井戸や池など、消火に使用できる水の場所を確認する
- 地域で協力体制をつくる



15

15

▶ 土砂災害 <土砂災害によって起こること>

土石流・地すべり・がけ崩れ



熊本地震（2016年）

・住宅地でも土砂災害が発生



北海道胆振東部地震（2018年）

・山間地で大規模な土砂災害が発生

▶ 土砂災害 <土砂災害からいのちを守る>

地震発生 被害想定区域にいたら ただちに避難する

・大きな地震によって 地盤が緩み、

土砂災害が起こりやすい

・余震による土砂災害にも注意する



日頃から 土砂災害の危険性を知る

・土砂災害の被害が想定される地域を

ハザードマップなどで確認しておく

地震からいのちを守るために



● 地震が起きたら

すばやく身を守る

● 地震発生時や事前にすること

揺れ 地震発生時: 身の安全を確保する

事前: 安全なスペースの確保

火災 地震発生時: 火元を確認する、周囲に知らせる、初期消火する

避難時: 火災防止措置

事前: 消火器等の準備、消火に役立つ情報の確認



土砂災害

地震発生時: 被害想定区域にいたらただちに避難する

事前: 土砂災害の危険性を知る(ハザードマップ)
